

2023

# 同友しずおか

11

「入ってよかった」「続けてよかった」「誘ってよかった」  
「企業も地域もよくなった！」

VOL.540



私の逸品

合同会社asterisk  
柚・菜桜助産所

助産師としてかけがえの  
ない命を守る

～互いに支えあい、励ましあい、援けあう～

私たちは地域にあってよかったと言われる同友会であり続けます



静岡県中小企業家同友会



## 中小企業家同友会とは

静岡同友会は1974年に71名の経営者が呼びかけあい、設立されました。約1,100名の経営者が、「経営体質の強化」「経営者の能力向上」「経営環境の改善」をめざし、活動しています。全国各地で開催される全国大会をはじめ、県全体で行う定時総会・全県経営フォーラム、また、経営課題別の専門委員会、県下11支部での活動、行政や関係諸団体との懇談、連携等、多岐に亘る活動をしています。

### 同友会3つの目的

#### 1 よい会社をつくろう

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。

#### 2 よい経営者になろう

同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

#### 3 よい経営環境をつくろう

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

- 社長はいつも孤独
- 経営の悩みを相談する仲間ができた
- 経営の成功体験しか聞けない
- 失敗談から勇気とヒントをもらった
- 目の前の仕事に追われる毎日
- 将来の会社のビジョンができた
- 指示待ち社員ばかり
- 自発的な社員が増えた

その答え、  
同友会にありました。

会 員 募 集 中

経営者同士だからこそ話せる  
悩み、解決へのヒント、将来への展望。  
体験してみませんか？

静岡県中小企業家同友会 TEL/054-253-6130

## ◆静岡同友会 2025年ビジョン 「企業づくり・地域づくり・同友会づくり」

### ◆ 企業づくり ◆

私たちは、関わる全ての人々が「成長」と「幸せ」を実感できる企業をつくります

### ◆ 地域づくり ◆

私たちは、中小企業と地域が手を取りあい、人々の幸せが見える地域をつくります

### ◆ 同友会づくり ◆

私たちは、企業と地域を守る経営者の<sup>きやうじ</sup>矜持と努力を結集し、  
学び・気づき・ワクワク溢れる活動を通して県下1500名会員を実現します

### 新会員のご紹介 (敬称略) 会員数 1094 名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者	氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
かとう ゆきひろ 加藤 幸大	(有)加藤美建 木造建築の設計・施工・管理	伊東	杉本 高英	しば きよひろ 柴 清裕	特定非営利活動法人 日本メイン美風協会 就労継続支援A型事業所	静岡	井上 斉
すずき こういちろう 鈴木昂一郎	(株)ビューティー岡本 美容業	沼津	岡本 丸茂	すずき あきこ 鈴木 彰子	合同会社Sustainable Operation Links 認証支援コンサルティング (ISO9001、 14001、22000)、エコアクション21、 ESG経営コンサルティング	静岡	内田 和也
ささき みか 佐々木実香	マザーラブ合同会社 家事代行業	富士宮	塩川 祐子	たなべこうしろう 田邊光史郎	lagent 広告・YouTube運用・動画制作・HP制作	静岡	若杉 幸秀
えのと もと 榎戸 基	トラヤテレビサービスク 映像制作・スタジオ・動画制作・HP制作・ イベント企画	静岡	江間 省豪	みやじ ゆうこ 宮地 優子	(有)塚本製作所 金属プレス・精密金型・設計制作	志太	影山真里・ 池原 智彦

### 名義変更による新名義人 (敬称略)

氏名	社名・事業	所属支部	旧名義人
はぎわら えいすけ 萩原 英輔	栄東装備(株) 店舗・オフィス・クリニックなどの設計・デザイン・施工、保守点検、住宅リフォームなど	静岡	山田 伸典

※新会員の写真は e.doyu 「ユーザ名簿」に掲載します。e.doyu からのご確認をお願い致します。



# 助産師としてかけがえのない命を守る

合同会社asterisk柚・菜桜助産所 (富士支部)

代表社員 堀田 久美氏



スタッフと新たな命の誕生を祝う

## 子どもの頃の経験から助産師を目指す

今回の私の逸品は菜桜助産所の代表であり、合同会社 asterisk 柚代表社員である堀田久美氏です。子どもの頃、お母さまの身体が弱く難産だった話を聞いたことや、いとこが赤ちゃんの時に亡くなってしまった経験などが、助産師を目指すきっかけになったそうです。1990年3月に日本赤十字看護大学を卒業後、看護婦免許・保健婦免許を取得。静岡県立厚生保育専門学校で助産学を卒業し、助産婦免許・受胎調整指導員を取得しました。赤十字病院で3年間助産師を勤め、富士市の産婦人科に3年間、その後静岡県立大学の看護学部助手を2年間、その後、2001年に菜桜助産所を開業しました。順天堂大学の助産を経て、浜松医科



かけがえのない命を守る

大学助産学専攻科の講師を務め、東京大学大学院医学系研究科博士課程を修了。その後、東京大学大学院医学系研究科客員研究員として、助産師と助産学に携わることを両立させながら会社も経営しています。

## 自身の考え方を深めるために同友会に入会

堀田氏が入会したのは2018年の2月。小川友代氏(株仕出しおがわ・富士支部)と約10年前に「産後ママ応援弁当」づくりと一緒に取り組んだのをきっかけに交流が始まり、同友会に誘われたのが入会のきっかけでした。これまでも医療の中での交流はありましたが、完全な異業種交流ができ、幅広い分野で色々な話が聞けたり、自分とは違う視点からの意見が聞けたりと、魅力のある会だと思いつい入会されたそうです。同業者の先輩方の常識と堀田氏の常識とのギャップに考えることも多く、一般的な経営者の考え方も意見を聞きたかったのも入会のきっかけと話します。

## 生きがいは助産師として命を守る

今に至るまでには助産師ではなく専門の教育者という選択肢もあつたと話します。しかし、子どもの頃から目指した助産師

への思いは強く、今では会社の代表であるとともに現場の仕事も行い、教育にも関わっています。「助産師としてかけがえのない命を取り上げるその瞬間に喜びを感じ、それが私の生きがいです」と堀田氏。同氏の私の逸品は、ものではなく生まれたての赤ちゃんの写真です。助産師として自身の技術を駆使してかけがえのない命を取り上げるその取り上げた手が、そして生まれてきた赤ちゃんが合同会社 asterisk 柚・菜桜助産所にとってかけがえのない存在だと話します。

## 女性が抱える悩みに寄り添い、支えるために

同氏は2017年に合同会社 asterisk 柚を設立。女性が女性であるために抱えている問題(産後うつ・姑問題等)を助けたらというコンセプトから、産後の視点での訪問看護や出産後から未就園児の一時預かり、赤ちゃんの発達教室の先生



会陰ケア用のウォッシュ・バーム・クリーム



一時保育・預かり保育 Baby Resort 菜桜

## 合同会社asterisk柚・菜桜助産所

〒416-0945 富士市宮島1062-8

TEL : 0545-67-5503

URL : <https://asteriskyuzu.com>

設立 2017年

社員数 23名

入会年月 2018年2月

事業内容 出産・母乳ケア・育児相談、物品の販売、運動クラスの開催、子育てクラス開催

取材・記事：渡邊正仁氏 (㈲丸之工務店・富士支部)

や骨盤底筋のためのケア等ができる人材の育成などに総合的に取り組む会社です。このように女性の問題を心と身体から支えていく菜桜助産所と合同会社 asterisk 柚の2つの経営に携わる堀田氏の。女性の強い味方として今後も益々の活躍を期待せずにはいられませんでした。

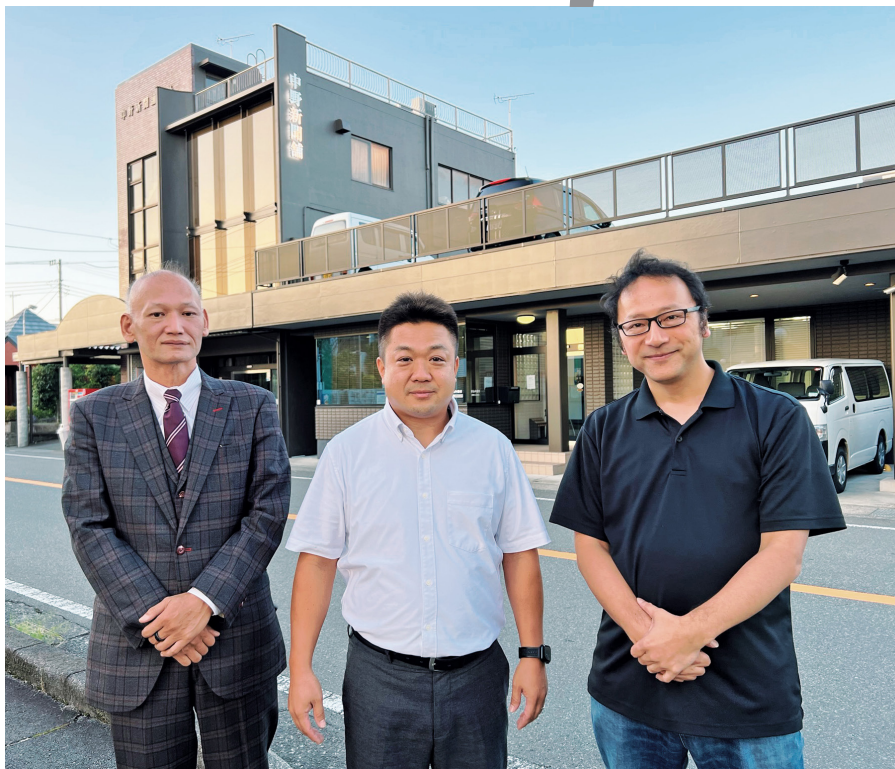
会員訪問記

新聞愛から地域愛への変革

仲間と未来をつくる

(株)中野

代表取締役 中野雄貴氏 (富士宮支部)



中野雄貴氏 (中) と取材陣 (穂坂勝彦氏、田邊元裕氏)

富士宮市内の新聞販売店4代目社長をとめる中野雄貴氏を富士宮支部の穂坂支部長と共に訪問しました。中野氏は湯河原にある同

業他社で修行の後、24歳で叔父の経営する中野新聞舗に入社し、現場から事務まで幅広く経験を積みました。その後、2008年に父

兄弟で会社が分割。10年の経験の積み重ねを経て叔父から経営者として認められ会社を譲ってもらい現在の(株)中野としてグループ会社を再統合、2019年に代表取締役役に就任しました。

同友会や異業種との交流で目覚める

「心置きなく、新聞業に進進していきな」と思った矢先、新型コロナウイルス禍の影響を受け、重要な売上の一つであるオリコミも半減する事態になりました。そんな時に、富士宮支部会員で、同業の勝亦新聞店 (現・㈱ツタウェル) の勝亦氏から「同友会に沢山の仲間とヒントがあるよ」と紹介され2021年入会しました。

同友会以外にも各種異業種団体に入会し、精力的に活動・勉強をしていく中で「自分は井の中の蛙だった。新聞愛が強すぎて、狭かった視界を開くことが出来た」と言います。そして早速、自社の強みである配送ネットワークを活



新規事業について語る中野氏

用し、卸流通を行う同友会メンバーと提携し、災害備蓄品や日用品を販売・配送する事業をスタートすることも出来ました。(現在は新事業の都合で休止中)

社員を守る。新規事業への取り組み。

しかし、時代の流れで主要新聞が夕刊を廃刊した事で、社員の稼働時間に空きができてしまい「社員の雇用を守らねば」と更に一念発起、地域の家庭の掃除、草取り等家事代行の便利サービス事業や、介護事業を開始しました。この際にも、同友会で「こういう事業始めてみようと思うかどうか」と仲間の経営者に相談したところ、賛同を得られたことが背中を押してくれたといいます。当初は社員に戸惑いがあったものの、全員と面接をして雇用契約を見直し、合意を得て、スキルアップを図りながら新聞業+新規事業に取り組み日々です。

無くてはならない、唯一無二の会社へ

「時代と共に、必要なものも変わることを痛感した。(株)中野は地域に無くてはならない、唯一無二の存在になる。その為にはどうし



中野新聞舗の便利サービス

(株)中野

〒418-0001 富士宮市万野原新田2868-2

TEL : 0544-23-3333

URL : <https://nakano-net.com/company/>

設立 2010年10月

社員数 正規60名、パート20名

入会年月 2021年2月

事業内容 新聞販売、折込広告、牛乳販売 (森永)

取材・記事 : 田邊元裕氏

(株)カボス・富士宮支部

取材 : 穂坂勝彦氏

(富士宮清掃(株)・富士宮支部)



新聞配達準備を行う

学びと実践

事業承継とM&Aに取り組んだ新社長

(株)シングウ技研

代表取締役 中村俊哉氏 (沼津支部)



中村俊哉氏 (中) と取材陣 (田村雅彦氏、滝川浩氏)

祖父の代から続く事業を承継  
(株)シングウ技研の中村俊哉氏は、  
2022年7月に事業承継を行い、  
お父様から引き継いで代表取締役

となりました。中村氏は幼少期から、祖父が創業した同社をいすれ継ぐものと漠然と考えていました。都内のIT企業へ就職して2008年まで働き、先代であるお父様

の呼びかけで会社に戻ってきました。

中村氏は3人兄弟で、弟さんお二人が現場で技術分野を取りまわっています。技術とは違う総務営業企画という形で入り経営を学び始めた中村氏は、2015年に承継を見据えて専務取締役へ就任。6年ほどの準備期間を経てこの代表になりました。先代とのタイミングの調整など、事業承継は大変だったと語ります。経営にあたっては暗黙の了解としてあった数々のルールをご自身でかみ砕いて理解しながら新しいやり方を模索し、現在は過去最高売上となりました。

事業の拡大を見据えてM&A

新代表となつてから行った大きなことの一つにM&Aによる企業グループ化があります。事業の承継を進めながら、現場の技術職人員の不足、特に若手が育ってきていないところが経営課題と感じていた中村氏。受注が増えた一方で自社の人員・設備のキャパシティだけでは対応しきれなくなつてお

同友会での学びを現場に広める

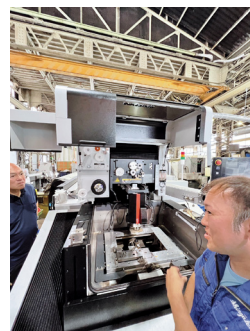
2017年に同友会に入会した中村氏。最初は出席したりしなかったりでしたが、興味を持つていた沼津支部の福祉委員会に移動し、役をやるようになってから積極的に参加するようになり、結果として学びが大きくなることを実感したそうです。また県および支部の経営指針を創る会にも参加し

り、代表になる前からM&Aも視野にいて自社の技術力強化のためのパートナーを探していました。金融機関の紹介をきっかけとして有限会社青山製作所を2023年3月にM&Aし、グループ会社としました。技術人材や精密測定機などの自社でまかないきれない機能を補うかたちとなり、現在の受注状況にも対応できるように注力し、今後はM&A(マーケティングオートメーション)ツールの導入などDXにも注力し、シングウ技研グループとしてさらなる事業発展を目指していくと話してくれました。



経営理念

て、先代のときはなかった理念・指針を具体化し社内でも報告しました。「理念を創る大変さを社員に説明したことで、同友会の存在の大きさを理解してもらえたと感じている」と中村氏



最新鋭の機械設備

(株)シングウ技研

〒410-0834 沼津市上香貫嶺島町1360

TEL : 055-931-3260

URL : <https://shinguugiken.com>

設立 1967年

社員数 25名 (役員・パート・グループ会社含む)

入会年月 2017年3月

事業内容 電機機器の制御機器部品、血液分析機の機構部品、血輸バッグの製造ラインの部品、農機具部品の加工全般、模型飛行機の中核部品の製造 等

「自律進化型の組織を目指して同友会で学んだことをしっかりと活かし、社員に伝播させ会社をよりよくしていきたい」と今後の意気込みを語ってくれました。

取材・記事：太田喜貴氏 (株)キラガ・沼津支部

取材：滝川浩氏 (肩こり腰つう倶楽部・沼津支部)

取材：田村雅彦氏 (株)TAMURA・沼津支部

## 県共育委員会

### 若手社員フォローアップ研修を開催

# 仲間とともに半年間を振り返り、信頼される社員へステップアップ

10月13日（金）、静岡市の静岡県総合社会福祉会館シズウェルにて、県共育委員会主催の「若手社員フォローアップ研修」を開催。会員企業より10社15名が受講、2社2名の見学参加もありました。講師は須山由佳子氏（南キャリア・アップ・浜松支部）。最初に共育委員の鈴木雅夫氏（香港静雅有限公司・榛南支部）による発声練習を行いました。声を出すのが得意な人も苦手な人も、全員が10メートル先の人の聞こえるような大きな声であいさつし、元氣よく研修がスタートしました。



15名の参加社員と須山講師、共育委員スタッフ

「上司やお客様から褒められた」「自身に仕事をまかせてもらえうれしかった」など、辛かったことについては「自身の知識不足もあり仕事を終えられず辛かった」などの発表がありました。その後は、須山氏より「安心と信頼を高める報告・連絡・相談」と「段取りとタイムマネジメント」の大きく二つについて講義を行いました。グループディスカッションでは皆さん活発に発言し、笑顔も見られ和やかな雰囲気でした。昼食の後には参加企業の社長や上司から事前に頂いた「参加社員に期待したいこと」を受講生に伝え、参加意識を新たに午後2部を行いました。

研修の中で、見学参加の鈴木憲介氏（株東海医療器械・沼津支部）に挨拶をお願いしたところ「この場の参加者は同期と同じである」と自身の新人時代の経験も絡めて話してくれました。確かに、中小企業では同期の社員がいなくても多いでしょう。研修を通して活発に意見交換し、その過程で仕事の悩みなどを話せる仲間ができる場になれば、研修を開催する側からすれば嬉しいことです。また、参加者の活発な発言、討論の様子をみて、人の成長には「共育」が必要だとあらためて考えることができた貴重な一日でした。



野川委員長

野川 和三氏  
（県共育委員長・  
株野川商店）

## 第22回障害者問題全国交流会 in 愛知

# 対等な関わりから信頼が生まれる！語り合い、信頼し合い、明日を拓こう！

10月19日（木）～20日（金）  
名古屋 Marriott アソシアホテル・ゲートタワービルカンファレンス

第22回障害者問題全国交流会が10月19日（木）～20日（金）に障害者雇用運動発祥の地である愛知で「対等な関わりから信頼が生まれる」語り合い、信頼し合い、明日を拓こう！」をテーマに開催され、全国から約600名（うち静岡12名）が参加しました。一日目は共生社会の実現やダイバーシティ経営など6つのテーマで分科会を開催。2日目は「企業経営における見えない生産性とは」をテーマに会員によるパネルディスカッションを行いました。パネル



中村 俊哉氏

全体を通して、私の中で最も印象深かったのは分科会でした。第2分科会「ダイバーシティの力で笑顔あふれる未来を創りだす」誰であっても活躍できる社会とは」を選択したのですが、同じ製造業で私の一歩も二歩も先を行っている神奈川県（株）栄和産業 伊藤社長の報告を聞きました。自社を希望した高校生を全員採用。障害者は知的・精神・身体障害者を多数採用。学生数のべ115名、就労移行支援事業所47名の実習受け入れ、従業員の女性比率50%を目指す、小学生向けの特別授業を毎年行いアカデミー設立を計画。ダイバーシティ経営、人間尊重経営を地で行っているだけでなく結果として売上も倍増させ、14ヶ所に工場を建て200名近い従業員を雇用としっかり結果も出していることに、ただただ感心しました。グループ討論では、様々な県の経営者と意見交換したのですが、こちらでも一人ひとりが、既にやっている経営者だったので、本当に学びが深かったです。



静岡からの参加者の皆さん

2日間を通して、同友会運動の基盤である人間尊重経営に改めて立ち返る学びの場となりました。中村 俊哉・県障がい者問題副

# 静岡大学連携講座「企業経済特論Ⅳ」がスタート！ 会員経営者が中小企業の魅力や経営哲学を学生に伝える

10月4日より、第16期静岡大学連携講座「企業経済特論Ⅳ」がスタートしました。中小企業の役割や魅力を知ってもらおうとともに、経営者の生き様や経営哲学から学生の今後の人生に役立ててもらおうことを目的に2008年より毎年開催している本講座は今年で16年目を迎えます。静岡大学と静岡同友会は2008年に相互協力協定を締結しており、その連携の一環として本講座が開講しました。講義は全15講からなり、毎回異なる会員経営者が登壇、自社事業について、また経営に対する考え方や自身の人生について語ります。人文社会科学部経済学科の3年生を中心に、今期は124名の学生が履修。就職活動を間近に控えた学生も多く「私たちの身近で社会を支えているのは中小企業だということが分かった」「自身の就職を考える際の参考になった」「社員を大切にしている会社で働きたいと感じた」などの感想が毎年多数寄せられています。講義の内容を今月より毎月紹介していきます！

## 第1講

10月4日(水)

### 日本経済における中小企業の果たす役割と意義、この講義の目的

講師：遠藤 一秀氏  
(遠藤科学(株)・静岡支部)



遠藤 一秀氏

中小企業白書や経済産業省等のデータをもとに雇用面、経済面、また地域社会の担い手としても中小企業が地域経済で果たす役割の大きさを説明しました。また、「社員の幸せ」を経営理念に掲げ、付加価値を極大化し社員に還元することを経営目的とする同社の決算書を一般的な決算書と比較しながら説明。最後に「本講座を通して中小企業経営者の個性にふれ、中小企業へ関心をもってほしい」と学生に伝えました。

## 第2講

10月11日(水)

### 生きることは食えること ～未来に繋げる経営のために

講師：小川 友代氏  
(株仕出しおがわ・富士支部)



小川 友代氏

2017年にご主人が急逝したことで経営者になった小川氏。従来の仕出し事業に加え、高齢化社会に対応し「シルバー弁当」をスタート。ごはんの量など個別対応し、地域の高齢者の見守りも兼ねています。さらに、安全・安心なお弁当をいつでも届けたいと今年1月から冷凍惣菜の新規事業も始め、ゆくゆくは社員のために工場移転を考えていると語りました。最後に「食べ方はその人の生き方そのもの。自分の食を大切にしてください」と話しました。

## 第3講

10月18日(水)

### 人生で達成したいこと

講師：渡瀬 亜由子氏  
(夢トロッコ・浜松支部)



渡瀬 亜由子氏

静岡県西部の湖西市でパソコン教室の運営やWEBサイト・広告制作、経営・就職応援を行う夢トロッコ。「夢トロッコ」には同じ夢に向かって仲間とともに進み続けたいと渡瀬氏の強い思いが込められています。渡瀬氏は様々な職種での経験や自分探しの旅で見つけた人生で達成したいこと、今後の夢トロッコの展望について話し、最後に「自分の身の未来、地球の未来にワクワクしていますか？」と学生に問いかけました。

## 第4講

10月25日(水)

### 人生を豊かに

講師：大多和 宏明氏  
(有セイシンメタルプロ・静岡支部)



大多和 宏明氏

静岡市清水区に会社を構え、建築鉄骨・金物加工、ステンレス・アルミのオーダーメイド品の製造、現場施工を手掛ける大多和氏。建設業界で働くことのリアルを自身の経験とともに話しました。「今でこそ楽しく仕事をしていますが、本当の楽しさに気づいたのは40歳を超えてから。楽しい」と、楽は違います。頑張ってもやり遂げたときの達成感が仕事の楽しさに繋がります。皆さんも焦ることなく、豊かな人生を歩んでください」と学生にメッセージを伝えました。

## 第5講

11月1日(水)

### 意識改革 ～自分が変われば世界が変わる～

講師：三浦 大輔氏  
(有三浦水産・伊東支部)



三浦 大輔氏

伊東市で水産卸売業を営む(有)三浦水産。代表取締役の三浦氏から自分の意識が変わったことで周囲の見方、評価が変化してきた経験やこれからの(有)三浦水産のビジョンを話しました。また、地元で近代的で持続可能な漁業に挑戦する企業との連携や自社の新工場を活用した産学官連携への取り組みも紹介。地域と日本の未来を担う学生にむけてメッセージを送りました。



講義の様子

# 11月・12月

## DOYU CALENDAR

11月16日(木)～12月15日(金)

11月 16日(木)～ 17日(金)	中同協共同求人・社員教育活動全国交流会in鹿児島 (13:00 城山ホテル鹿児島)
18日(土)～ 19日(日)	第20期経営指針を創る会 経営指針発表会 (9:00 レイアアップ御幸町ビル・静岡駅前会議室LINK)
20日(月)	県共育委員会 (18:30 ZOOM)
22日(水)	県組織増強委員会 (17:30 同友会事務局&ZOOM)
24日(金)	県理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM)
28日(火)	静岡県事業承継・引継ぎ支援センターとの意見 交換会 (14:00) 県例会企画委員会 (18:30 ZOOM)
29日(水)	同友会オリエンテーション【パートⅡ】 (14:00 同友会事務局&ZOOM)
30日(木)	NEXT50フォーラム③ (10:00 同友会事務局&ZOOM)

12月 1日(金)	中日本ブロック事務局員研修 (13:30 名古屋市)
6日(水)	正副代表理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM)
7日(木)	総務財務委員会 (16:00 同友会事務局&ZOOM)
8日(金)	女性部ダイヤモンドカレッジ (14:00 ZOOM) 富士宮忘年例会 (19:00 富嶽温泉花の湯)
12日(火)	静岡例会 (19:00 ペガサート)
13日(水)	御殿場忘年例会 (18:30 つぼぐち本店)
14日(木)	浜松例会 (19:00 調整中)



《 あなたのスケジュールノートに  
必要事項をご記入ください 》



中小企業の現実的なDXをテーマに県広報  
報化委員会主催でオープン勉強会を開催、34名  
が参加しました。松葉秀介氏(松葉倉庫㈱・県  
代表理事/志大支部)と太田喜貴氏(㈱キラ  
ガ・沼津支部)の2名から自社でのDXの取り  
組みを報告。松葉氏は「入口から考えるDX」  
について、経営理念・経営方針や自社の経営課  
題と照らし合わせながらDXを推進し、評価制  
度にも反映することで事故減少や社員の働きや  
すい環境づくりに繋がっていると話しました。  
太田氏は「中小企業で出来る現実的なDX」に  
ついて、社員やお客様の年齢層が高い中でもヒ  
アリングを行いながら在庫管理・販売管理のシ  
ステムを導入したことや、ライブコマースで商  
品の魅力をリアルタイムに配信することで店舗  
型の強みを生かしながら新たな売上増に繋がっ  
ていると話しました。

報告後は各社のDX  
化・IT化の取り組み  
や課題についてバズ  
セッションを行いまし  
た。ITに抵抗感のあ  
る社員がいることやI  
T人材の育成が課題と  
して挙げつつも、同  
友会の学びの場やネッ  
トワークを活用しなが  
ら経営者が率先して取  
り組むことが大切であ  
ると共有されました。

県広報情報化委員会主催オープン勉強会  
できることからはじめよう！  
事例から学ぶ中小企業の現実的なDX  
10月30日(月) 同友会事務局・ZOOM



これまでの苦難を赤裸々に語る兼古氏

報告の後は「自社の持つ役割を理解していま  
すか？」をテーマにグループ討論を行いました。  
新会員の方も参加いただき、経営理念はなぜ必  
要なのか、自社の  
存在価値はどこに  
あるのか意見を交  
わしました。  
次回は11月29日  
(水) 14時からオ  
リエンテーション  
を開催します。報  
告者は齋藤寧氏  
(㈱齋藤組/静岡  
支部)です。ぜひ  
ご参加ください！

オープンバーや新会員にむけて同友会を知っ  
て頂く機会として、また仲間との交流の場とし  
て毎月開催しているイントロセミナー。10月は  
磐田市富丘で工場向け生産設備の設計や製造、  
電子応用機器設計や製造を行う兼古東志浩氏(㈱  
アイビス・中遠支部長)が報告しました。  
社長であった父が急逝し、急遽会社を継いだ  
兼古氏。事業承継の準備期間はあまりに短く、  
なんとか経営していくもさらに資金難に直面。  
悩みが深まる中、薬をもつかむ思いで県経営指  
針を創る会に参加しました。自社の存在意義や  
なぜ経営者なのか、自社の生い立ちを改めて考  
える時間となり、初心に戻って心機一転、経営  
者の本質と覚悟を見つめなおす転機になったと  
語りました。

10月イントロセミナー  
経営指針成文化で拓けた  
自社の未来  
10月27日(金) 同友会事務局&ZOOM

訃報 10月に静岡同友会会員の河原崎勝弘氏(㈱河原崎商事 榛南支部会員)がご逝去されました  
謹んでご冥福をお祈りいたします